

## 全労金2014春季生活闘争ニュース第18号

《合意速報No.5》

### 中国労組が金庫との交渉を妥結しました！

中国労組は、3月25日、金庫との団体交渉において、交渉の妥結を確認しました。内容は、①無期転換権の付与は、応じられない。ただし、今後、やりがいを持って働き続けることができる仕組みづくりに係る協議が必須であると認識している、②契約職員Ⅱ・契約職員Ⅰの賃金は、応じられない、③正職員の一時金は、4.5ヵ月（要求通り）、④契約職員Ⅱの一時金は、現行通りとする（要求は、2.5ヵ月）、⑤契約職員Ⅰの一時金は、応じられない（去年は支給なし。要求は、1.0ヵ月）、⑥契約職員の退職金は、応じられない、⑦契約職員の諸休暇（年次有給休暇の付与日数の増加、産前産後休暇の改善、配偶者出産休暇を正職員と同様）は、応じられない、⑧福利厚生制度は、応じられない、とするものです。なお、安定雇用に係る協議を行う中で、単組が要求した賃金・一時金・退職金・諸休暇・福利厚生制度等の有期雇用労働者の処遇について検討するとしています。

団体交渉で金庫からは、「現在の社会情勢をみると、個人消費・雇用情勢等の経済指標は改善傾向にあるが、勤労者の賃金改善はやや懐疑的である。中国労金を取り巻く環境は、少子高齢化に伴う人口減少が進み、金庫の経営基盤となる間接構成員が減少し、先行きを見通すと金庫基盤が不安定である。また、金庫の収益状況は、超低金利による利鞘の縮小や固定費の増加により、今後、数年は非常に厳しい状況が続くと想定される。要求書が提出された以降、職員のモチベーションと組合からの強い要求にどのように応えるか検討してきた。現在の収益状況を見ると、一時金も厳しい対応とせざるを得ない状況であるが、アールワン移行への感謝、及び、システムを活用した新たな営業スタイルの構築への期待を込めて要求通り回答する。勤労者のための福祉金融機関としてのあり方と、今後の幅広い視野を考慮した結果、今春闘の回答に至った」等の見解が表明されました。

下島闘争委員長は、「要求提出以降、連日にわたる交渉対応について感謝申しあげる。正職員の一時金は、非常に厳しい経営状況の中、職員の奮闘について評価され、英断をいただいたものと認識している。一方で、契約職員の公正処遇・均等待遇に向けた要求は、契約職員の頑張りや奮闘を評価する認識が示されながらも、個別の要求に応じられなかったことは非常に残念である。すべての職員が、やる気を持ち、働きがいを感じることができ、能力が発揮できる環境や仕組みを構築していくことが、中国労金の発展につながるものとする認識は共有できた。すべての職員が、中国労金で働き続けるため、将来を展望できるような制度の構築と前進した結果が出せるように、協議を進めることを重ねて要請する。2014年度も、アール・ワンシステム機能を最大限に活かして、営業推進活動に全力を

注ぎ込み、収益力の改善をめざし、すべての役職員が一丸となって取り組んでいかなければならない。すべての職員は重要な“人材”であるとの認識のもと、安心して労働金庫事業に取り組むことができる環境づくりを労使共通の認識として取り組んでいくことを決意する」等を表明しました。

なお、単組は、①一時金、今年度の見込み、今後の収益見通しは非常に厳しいものの、アールワン移行の奮闘を評価し、正職員・契約職員Ⅱに関しては、昨年実績を確保することができた、②嘱託等労働者の要求項目は、応じられないとする回答であったが、今後、自信とやりがいを持って働き続けることができる仕組みづくりに係る協議が必要であるとする認識のもと、4月に労使で「人事・賃金制度検討委員会（仮称）」を立ち上げ、2015年4月の運用開始を目途に、積極的に協議することを確認した、等から交渉の妥結を判断しました。

＊合意単組：5単組（3月25日16時30分現在）

静岡・北海道・北陸・中央・中国

以 上